

令和 2 年度

第 2 回松戸市地域自立支援協議会
専門部会活動報告書

令和2年度 松戸市地域自立支援協議会 相談支援部会

【部会の活動目的】

- ① 計画相談の作成率及び質の向上を目的に、松戸市の相談支援体制の役割を共有し、支援体制を強化していく。
- ② 障害のある当事者やその家族が生活に必要な支援について検討していく。

課題

- ① 中央圏域・常盤平圏域・小金圏域の各圏域それぞれで地域包括ケアシステム構築が進められているところ、障害分野における相談支援体制の整理や、地域課題の分析等の事柄についても、3環境区を念頭に置いて進めていく必要がある。
- ② 昨年度の相談支援事業所連絡会『サポサポ』により、障害分野以外とのネットワーク形成には十分な達成が見られたものの、障害の相談支援事業所の参加状況が十分とは言えず、知識・技術や問題意識等に係る全体の底上げに課題が残っている。

目指す姿

障害がある人からの様々な相談を地域のネットワークで受け止めて自立した生活を支えるために必要な支援を展開できる

令和2年度の目標

【3環境区を意識した 相談支援体制の整理】

3環境区を意識して支援を組み立てるべき場面、エリアを積極的に活用することが有効な部分や、逆に地域単位ではなく、松戸市全体や近隣市も含め広圏域で捉えるべきものを整理していく。

【サポサポの活動支援 及び運営方法の見直し】

相談支援事業所のサポサポへの参加率を高め、相談支援事業所間のネットワーク強化をさらに進めていく。

具体的な取り組み

- ① 3環境区について定量的な比較と定性的な評価を行い、エリアごとの支援の実態を整理する。
- ② 地域診断の結果を踏まえて、実際の支援においてエリアを活用できないか、検討し、実践していく。
- ③ 地域診断の結果を踏まえて、他分野との連携の仕方を検討する。

- ① 内容面では障害に特化したプログラムの実施をする。
- ② 運営面では参加者を巻き込んだ企画会議の実施をする。
- ③ 地域課題の抽出・整理は、昨年度の内容も踏まえた上、3環境区も念頭に置いて継続していく。

【具体的取り組みの内容】

今年度の相談支援部会では主に、3環境区を意識した相談支援体制の整理としての地域診断に加え、サポサポの活動支援及び運営の見直しに取り組んだ。内容は下記の通り。

○地域診断

- ① まずは松戸市の中で地域ごとの特性、偏り、得意なところや不足している点とその変化や繋がりという所に焦点をあて、地域診断を行った。定量的なデータを基に、「地域の良い点・支援のやりやすさ」「地域に不足している点・課題」「現状での対応・繋ぎ」に関して、意見を出し合い、実態を把握した。（詳細は添付資料①を参照）
- ② 地域診断の結果を踏まえて、実際の支援におけるエリアの活用のイメージについて検討した。さらに、市全体としての課題についても話し合いを行った。その結果、エリアに関わらない課題として、短期入所の受け皿の確保、医ケアの受け入れ事業所の充実、ひきこもり支援の仕組み作りという3点が挙げられた。（詳細は参考資料②を参照）

○サポサポの活動支援及び運営の見直し

- ① 新型コロナの影響で8月からリモート形式で再開をした。その関係で、初回はコロナ禍での、相談支援の現場への影響についてをメインテーマとし、これに関しては、その後も主題の1つとして話し合いを行った。障害に特化した内容というよりも、現在の世相に合わせた内容となった。（詳細は参考資料③を参照）
- ② 地域課題の抽出・整理は部会で話し合った内容をサポサポへ落とし込み、より深い内容になるよう、意見を集めた。また、それらを通して、事業所間のネットワークの強化や、顔の見える関係づくりへつながった。

【令和2年度サポサポ開催日程表】

日付	分類	開催テーマ
8月20日	交流・意見交換	令和2年度しゃべり初め～コロナ禍の中での相談支援～
9月17日	交流・意見交換	松戸を「エリア」で見よう
10月15日	交流・意見交換	コロナ禍の中での相談支援・その2
11月19日	相談支援技術	困難事例検討会
12月17日	交流・意見交換	ひきこもりを含む困難事例の根本要因をさぐる！
1月21日	知識・学び	ひきこもり支援を深く学ぼう！
2月18日	知識・学び	法テラスの上手な使い方・障害年金の仕組みについて
3月18日	制度・学び	集団指導

【令和2年度の目標の達成度/次年度への課題】

○3環境区を意識した相談支援体制の整理

- ① 今年度の目標の1つである3環境区を意識した相談支援体制の整理に関しては、地域単位と、松戸市全体の有効な部分と課題を整理したことで、3環境区ごとの現状を把握することができた。エリアの活用に関しては、地域生活拠点及びその中心となる三か所の基幹相談支援センターに関する

ことが明らかになった段階で、改めて議論をしていく。また、地域診断の結果を踏まえての他分野との連携の仕方についても、引き続き検討をしていく必要がある。これらの事項については、次年度への課題とする。

- ② 相談支援体制の整理として、地域診断を行っていく中で浮彫になった課題の1つであるひきこもり支援に関しては、部会の中でケース検討を行った。その結果、ケースによって様々な背景があることがわかり、ケースごとの支援のやりづらさ、不足しているツールをまとめることができた。その中には、ひきこもり支援やケースに関して共有する場が不足していることもあげられており、部会の中で検討を行うこと自体が、ひきこもりの支援へ繋がる資源であるという意見もあった。今後も様々なケースの分析をしていく必要があり、三か所の基幹相談支援センターの担う役割も含めて、次年度も継続的に取り扱うべき事柄である。(詳細は参考資料④を参照)

○サポサポの活動支援及び運営の見直し

- ① サポサポの活動が新型コロナの影響で4月～7月まで休止となり、8月からはZOOMを利用したリモート形式で再開をしている。その為、相談支援事業所並びに他分野とのネットワークを継続的に発展させることはできている。運営面に関しては、参加者を巻き込んだ企画会議の実施を検討していたが、リモート形式では行うことが難しかった。今後、参加者を巻き込んだ企画・運営を図ることが課題となる。
- ② 回数の変動により、プログラムにも変更が出ている。外部から講師を招いて行うことが難しい状態であるため、年度初めに立てたスケジュールをそのまま行うのではなく、時事的な話題や部会で取り扱っている内容の深掘りなどのプログラムに変更になっている。令和元年に行ったアンケート結果を基にしたニーズと照らし合わせると、意見交換や困難事例の検討という部分においては達成ができているが、専門的な知識の吸収や学びの機会、実践的技術を扱う回という部分については、実施が困難であった。相談支援事業所の日常業務と直結する、コアなプログラムと、それによる相談支援事業所の参加意欲を喚起することは次年度も継続して検討、実施していく。

【次年度の活動内容】

- ① 地域生活拠点及び三か所の基幹相談支援センターと、相談支援事業所の関わり方・活用法について
- ② ひきこもり支援に関する現状分析と理解の促進
- ③ 新型コロナによる相談支援への影響確認、業務の見直しについて
- ④ 相談支援事業所連絡会「サポサポ」の活動支援及び連携の見直し
(自主的な企画・運営へのシフト、参加率の向上、遠隔での開催手法等についての見直し)

市内全体	世帯数	人口総数	男性	女性	高齢者	身体障害	知的障害	精神障害
	241,865世帯	498,994人	248,260人	250,734人	127,713人 (25.59%)	13,163人 (2.64%)	3,601人 (0.72%)	4,190人 (0.84%)

市内人口のおよそ42%を抱える。
新しい世帯多いため高齢者の割合は少ないが、

人口はひととき少ない一方、障害者だけでなく、
高齢者の割合も高い。入所施設やGHが多く建っているほか、

人口規模や高齢者・障害者の数・割合は
中程度。相談支援事業所が少ない。

3圏域区	中央圏域				常盤平圏域				小金圏域			
	世帯数	人口総数	男性	女性	世帯数	人口総数	男性	女性	世帯数	人口総数	男性	女性
人口規模	100,599世帯	208,076人	104,361人	103,715人	57,868世帯	120,007人	58,907人	61,100人	83,398世帯	170,911人	84,992人	85,919人
障害者数 (人口比)	高齢者 47,529人 (22.84%) 身体障害 5,089人 (2.45%) 知的障害 1,198人 (0.58%) 精神障害 1,618人 (0.78%)	高齢者 34,329人 (28.61%) 身体障害 3,521人 (2.93%) 知的障害 1,048人 (0.87%) 精神障害 1,158人 (0.96%)	高齢者 45,855人 (26.83%) 身体障害 4,413人 (2.58%) 知的障害 1,077人 (0.63%) 精神障害 1,374人 (0.80%)	地域包括支援センター 計画相談支援事業所	地域包括支援センター 計画相談支援事業所	地域包括支援センター 計画相談支援事業所	地域包括支援センター 計画相談支援事業所	地域包括支援センター 計画相談支援事業所	地域包括支援センター 計画相談支援事業所	地域包括支援センター 計画相談支援事業所	地域包括支援センター 計画相談支援事業所	地域包括支援センター 計画相談支援事業所
相談窓口の所在	【6ヶ所】 本庁、明第1、明第2西、明第2東、矢切、東部	【4ヶ所】 常盤平、常盤平団地、五香松飛台、六美六高台	【5ヶ所】 馬橋、馬橋西、新松戸、小金、小金原	7事業所 (うち障害児) 6事業所	13事業所 (うち障害児) 11事業所	4事業所 (うち障害児) 3事業所						
支援の重要資源	福祉関係 総合福祉会館、松戸市役所基幹相談支援センター、松戸市社会福祉協議会	他分野等 ハローワーク、松戸保健所、しぐなるあいず、裁判所、東松戸病院、新東京病院、矢切特別支援学校、法務局	福祉関係 健康福祉会館、ふれあい相談室、障害者支援施設2ヶ所、社福3法人(まつど育成会、松の会、松里福祉会)	他分野等 恩田第2病院、三和病院、千葉西総合病院、松戸市総合医療センター、つくし特別支援学校	福祉関係 ほっとねっと、晴香園・児童家庭センターオーリーブ	他分野等 新松戸中央総合病院、旭神経内科リハ病院、在宅医療機関(あおぞら診療所、いらはら診療所)、松戸特別支援学校						

地域の基本情報	<ul style="list-style-type: none"> 他の地区に比べ人口が一番多い。 比較的新しい家が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口は3地区で最も少ないが、人口に対する障害者数の割合は、身体・知的・精神共にとも、3地区で最も高い。 3圏域で比較した際の高齢化率も最も高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に東京へのベッドタウンとして発展してきており、地域によって歴史は浅く、住民の結びつきは弱いイメージ。 単身向けアパートが多いほか、外国人も多い。 駅から離れた古い住宅街もあり地域差は大きい。
---------	--	---	--

様々な公的機関、司法・行政の施設が身近にある！
支援の組み立てや、手続きの面など、
現場でのメリット感はどうか？

福祉・医療・教育など、様々な面で支援の拠点になるような資源が多く、障害の方を受け止める土壌もできている。
「その地域で生活していく」という支援の形が一番描きやすい
(地域包括ケアのモデルケース？)

公的な施設や、地域の支援拠点になるような大きな資源は少ないが、一方、地域の繋がりによるインフォーマルな資源や交流の場は多く、活用できる。

地域の強み・支障のやりやすさ	<ul style="list-style-type: none"> 松戸駅周辺に自立支援医療の医療機関が多い。特に軽めな感じの通院先となるクリニックを近隣で見つけやすい。(但し、精神特化の訪問看護はそこまで多いわけではない) 松戸駅やハローワークが近くて、支援や企業訪問等が容易なため、就労移行の数が多く、精神の方の支援組立は容易。 公的な窓口へのアクセスが比較的容易。(松戸駅近辺であれば市役所・ハローワーク・裁判所・法務局等) 特別支援学級が多種設置されている。(特に、弱視学級、難聴学級の設置校は中央圏域のみ) 人口が多いためか、圏域内の包括は6ヶ所であり、3圏域で一番多い。(常盤平：4包括、小金：5包括) 	<ul style="list-style-type: none"> 支援の拠点になるような施設が多い。恩田第2病院あるため精神医療も充実。周辺に精神の方が多く住んでいる。 生活介護などのサービス事業所以外にも社会資源が豊富。事業所だけでなく、団地等での集まり、子ども食堂、寺子屋等のインフォーマルな資源が多くある。(常盤平団地では、自治会と地区社協による『孤独死ゼロ作戦』も話題) 知的施設が多く、障害者イベントも開催場所も豊富なため、地域の人が施設利用者と触れ合う機会が多い。 地域の方が知的障害の方に慣れていて、何か迷惑をかけることがあっても理解がいただける。施設へ連絡等ももらえる。 福祉と教育が繋がりがやすい(松戸特支・つくし特支の両校がある、SSWが複数配置、不登校の通える学級がある) 常盤平包括の専門性が高い。また、以前から引きこもりケース等が包括から障害へ継続的に繋がられており、連携が図れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関：新松戸中央総合病院、旭神経内科リハ病院、千葉西総合病院など大きな病院が多い。 在宅医療：あおぞら診療所(医ケア、高齢者)、いらはら診療所(高齢者)など、在宅医療が充実している。特に医ケアでは、市立総合医療センターと連携して医療面の支援が充実している。 子ども食堂による「東葛草の根フードバンク」や、松戸くらしの助っ人、ふれあいネット松戸など、有償ボランティアの取り組みも多岐にわたるボランティア、地域の繋がりによるインフォーマルな支援ツールがあり、活用できる。(地区社協が活発に動いており、ボランティア登録が多い。) 包括との連携は良好で、ワンストップ対応ができている。 児童家庭センター・オーリーブがある。心理士による心理診断が受けられ、児童と親と家庭全体の相談ができる。 新松戸で展開するサービス事業所にとって、ほっとねっとの存在は大きい。例えば就労移行支援では、生活面・家庭面での環境の整えにおいて非常に助けられている。
地域に不足している点・課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域間の格差が大きく、エリアの一体性に乏しい。(市街心中部で常盤線・6号線が通る本庁地区、新京成沿線常盤平方向に行きやすい明地区、常盤・新京成エリアとはことなる北総線沿線エリアに位置する東部地区、市の東端にあり鉄道アクセスが困難な矢切地区) 他の圏域と比較して事業所数が少ないのは、ヘルパー、生活介護、児童発達支援の事業所で、特に人口比において顕著。(H27に矢切特支ができたためか、放デイ事業所は多い) とりわけ東部地区は資源少ない。特にヘルパー事業所が少ない。 松戸駅近辺の方を訪問する際に駐車できるところが無く、バイクや自転車での訪問可能なヘルパーでないと使づらい。⇒ただでさえ少ないヘルパーの選択肢が限られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 就労系の事業所は少ない。地活から就労へのステップアップがしにくい。 地域内での身体障害の方の人口比率が一番多いが、身体障害への対応に特化した事業所が不足。(生活介護もGHも、人口比では断トツに数が豊富だが、重度身体に利用できる事業所に乏しい) 大きな団地が所在しており、住民の高齢化が目立つ。特に常盤平地区(団地含む)の高齢化率は約30%と市内2番目。今後、世帯支援の必要度がさらに増えていくと思われる。 常盤平団地の方を訪問する際に駐車できるところが無く、バイクや自転車での訪問可能なヘルパーでないと使づらい。⇒ただでさえ少ないヘルパーの選択肢が限られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 精神科病床がある医療機関が少ないが、常盤線沿いに精神のクリニックがいくつもあるので、不足感はそのままでない。 相談支援事業所の少なさが目立つ。 地域活動支援センターの定員がいっぱい。 就A・就Bがすごい勢いで増えているが、まだニーズや利用者がそこに乗り切れておらず、かみ合っていない。 駅前の大きなマンションでは、団塊の世代が今後高齢化することにより、世帯問題が顕在化してくることが懸念される。 行政による住民の交流スペースが多かったが、コロナにより行政施設が閉鎖され、交流の場がなくなっている。 小金原地区の高齢化率は、団地が所在しているため約33%と市内で最大。今後特に世帯支援や障害・包括の連携が増加するのは、小金原団地の方を訪問する際に駐車できるところが無く、バイクや自転車での訪問可能なヘルパーでないと使づらい。⇒ただでさえ少ないヘルパーの選択肢が限られる。

3圏域の中でもとくに地域間格差が大きい！
同じ中央圏域内でも、本庁地域、明地域と、東部地域や矢切地域では、生活圏が全く異なる印象。
支援の中で地域の違いを意識することは？

高齢化率高く、高齢障害者・8050世帯などの課題が一番身近なエリアかも？
包括と障害との連携や世帯支援の必要性高し！

最近特筆すべきは、就労継続A型事業所の急増。小金圏域(中でも新松戸近辺)に集中。

現状での対応・強み	<ul style="list-style-type: none"> 放デイの利用は、流山市など隣接自治体への依存が多い。 精神の入院は、市外の病院を利用することが多い。(国府台病院、式場病院、葛飾橋病院) 	<ul style="list-style-type: none"> 資源が豊富で、特に知的の方を受け入れる土壌が醸成されていて、最も地域の中で支援を組み立てやすい。 知的に対する支援の組み立てやすさの反面、就労へのステップアップの場面や、身体に特化した支援を組み立てる際には、エリア外も含めて支援を描いていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 柏にほど近いエリア。 ⇒柏の資源への依存度高いか？
-----------	---	---	---

◆地域診断 市全体に関するまとめ

【主要な問題点】

●松戸市全体に関わる課題

今回、地域診断を行い、以下の3点が課題としてあげられた。

- ① 短期入所の受け皿の確保
- ② 医ケアの受け入れ事業所の充実
- ③ ひきこもり支援の仕組み作り



【問題の所在の整理】

制度上の課題

- ・夜間の看護師を配置できるだけの法人がないので、病院に頼らざるを得ない。
⇒発達や自閉傾向の強い方は、入院後における生活支援が課題であり、不足している。
- ・障害要因の引きこもりについては対応できているように思えるが、いま問題となっている「8050」のような、障害に起因しない引きこもりは、支援のための資源・アンテナがそもそも不足している。

環境の課題

- ・短期入所は絶対数が少ないうえ、突発的に全くのフリーで利用できる場所を探すのは極めて困難。緊急で利用可能性がある方の情報の事前把握はやはり重要。
- ・松戸特支卒業者（身体障害）の行き先・日中の受け皿が、市内に不足しており、市外で見つけないといけないのが現状。
- ・医ケアの入所、短期入所に関して市内での受け入れ先はほぼ無い。
⇒都内や千葉リハ、市内病院（千葉西、東松戸）で受け入れてくれることもある。
- ・身体障害者の短期入所が市内にない。他市の事業所に頼るほかない。
- ・ひきこもりの相談先として、自立相談支援センター、サポステ、福まるなどがあるが、基本的には「働きたい人」に対応しているイメージ。
⇒「働く」レベルに至っていない人への支援ツールが、絶対的に不足している。

当事者の課題

- ・短期入所の受け入れ先で一番困るのは、動ける知的障害の人。レスパイト入院も含めて受け入れ先を探す際も、「日中活動へ通えるなら」「家族の支援が得られるなら」などの条件が付いてくる。
- ・引きこもり支援では、寄り添い方・声の掛け方ひとつがとても大事。相談支援事業所だけで担うのは困難。
⇒引きこもり支援の体制を作るのであれば、誰がどこまでどのように関与するのか、仕組みをしっかりと示してもらうことが不可欠。

◆コロナ禍における相談支援

○支援上の困りごと

① 人及び家族のストレスや不安

感染リスクへの不安や、環境の変化への戸惑いが大きくなっている。また、家族と一緒にいる時間が増えたことにより、負担の増加や関係の悪化に繋がっていることも多い。

② 活動場所の減少による体力低下等の懸念

活動場所がなくなって以前に比べ、歩行機能や認知機能の低下が見られた。

③ 訪問の機会や直接対話の減少

一人暮らしの方などの安否確認が取りづらい状況になり、体調や精神面の実態が不明確になりやすい。情報共有の機会の減少や、支援が後手に回ってしまうことが増えている。また、サービスや受診への拒否からセルフネグレクトへ繋がるケースもある。

④ 発信できない方の声に関する拾い方

電話が苦手な方に対し、どのように対応するかが課題。以前は民生委員や地域の方から得ていた情報をどこから集めるか。

⑤ 不登校になってしまった児童の対応

基礎疾患がある子に関しては通学することのリスクが大きい。

○感染対策として行っていること

- ・電話か訪問か、家族の希望に沿って行っている。状況の把握やフォローが必要な人については訪問を実施。
- ・感染から身を守る防護の仕方をヘルパー全員に伝えるとともに、感染防止用の持ち出し袋（フェイスシールド、ガウン、手袋、消毒液入り）を常時持参している。
- ・高齢者は「新しい生活様式」に馴染みにくいので、訪問時にマスクをしていなかったら、「お互いのためにマスクをつけましょう」と促している。
- ・人と密で会わなくても関われるツールとして畑を作ってみた。通りがかった人が畑を通して、その時々に関われるようにしている。

○OZOOM 等によるオンラインの活用

- ・オンラインの必要性はわかるが、法人として環境整備が出来ていない。
 - ・移動時間が無くなって良い。
 - ・みな、苦手意識が大きい。やってみると意外とハードルは低い。
- ⇒ハードルを越えるきっかけとして、リモートに関する研修とかがあったら嬉しい。
- ・オンラインであっても、顔が見える形と電話は違うと感じる。
 - ・外に出かける機会の減少につながってしまうかもしれない。

◆ひきこもり支援のケース検討

○支援のやりづらさの所在や、行き詰ったポイント

- なかなか本人と会うことが出来ず、家族の支援のみで進んでいくケースもある。
 - 本人が動くには、何かしらのきっかけが必要。
 - 本人のペースに合わせて、段階を踏む必要がある。
 - 障害の受容ができず、「障害」というくくりでの支援を本人が拒んだ。
 - 母親に精神障害のある子の場合、母親の状態に影響されやすい。
- ⇒ヤングケアラーとして弟の世話や家事をしており、また、母と共依存的な関係になってしまっていることから、不登校、ひきこもりへ繋がっている。

○地域で不足している資源、ツール

- 今回のケース検討のように、ひきこもりの支援について話し合う場所。
 - 本人のニーズに合った居場所や話し相手。
 - 母子が対立関係にならず、良好な関係を保ったまま合意に基づいて利用できるような一時預かり施設。
- ⇒「保護」「分離」という強行的な手段ではなく、母子関係の調整や仕切り直しの場面で活用できるような施設。ヤングケアラーの事例において、特に必要な資源。

○検討を通して気づかされた、考えさせられた点

- 「支援」の見方やスタンスは、ケースごと、ひとりひとりの支援員、相談員によって考え方が異なる。
- ⇒主観的な支援員のイメージと、社会的な「こうあるべき」観、本人自身の意向や利益等、様々な要因が絡んでいる。
- ひきこもり支援の4ステップはいかなるケースでも当てはまる絶対的なルートではなく、あくまでも最大公約数的な1つの目安。「先に進むのがよい」という考え方の固定はしない。
 - 本人が必要とする時間をかけながら、周囲の理解を得て、時間をかけて選択肢を増やすことが必要。支援の押し付けをしない。
 - ひきこもりの状態像に定義としては合致するケースであっても、本人の病状によって、引きこもらざるを得ないという場合もある。
 - ひきこもり支援は、障害だけでなく、高齢者分野(特に世帯支援を行う包括)にも共通した課題のため、両分野が意見を交えられればなお良い。
 - 「社会的にこうあるべき」という世間一般の目線と、本人のペースを尊重する支援者の目線とのバランスを考える必要がある。
- ⇒様々な支援者ごとで「ひきこもり支援」へのスタンスや目線は異なる。どの視点も必要だからこそ、偏りすぎないようにクッションとなるバランスが必要となる。そのため、異なる支援者の意見や見方を共有し、互いの理解を深める場も必要。

令和二年度 松戸市地域自立支援協議会 就労支援部会

【活動目的】

- ① 就労継続支援 A・B 型事業所から一般就労を目指すための仕組み作り
- ② 障害者雇用の拡大（企業向け支援）
- ③ 就労継続支援ネットワークの運営支援

課題

- ① 就労継続支援事業所の利用者が一般就労を希望するにおいては、職場のマッチングのむずかしさ、就労支援ノウハウが十分でない、就職後の定着支援において事業所職員体制でのフォローが困難、事業所運営の問題、離職した場合に戻る受け皿があるのかという不安、世間の荒波から守りたいというご家族の気持ちなどの様々な課題がある。
- ② 令和元年度における民間企業の法定雇用率達成割合は、松戸市は 46.9%であり、全国 48.0%、千葉県 51.6%、ハローワーク松戸 49.2%で千葉県内のハローワーク管轄の中で一番低く、市内企業に対し、障害者雇用の周知・啓発がまだまだ必要である。
- ③ 昨年度、就労継続支援ネットワーク代表者と就労支援部会で企画・運営を行い、自立運営を意識して開催してきたが、参加する事業所に偏りがあり、就労継続支援ネットワークの企画・運営には、まだサポートが必要。今後、存続の必要性も含めてネットワークの在り方を検討することが課題である。

目指す姿

障害のある人が、地域で生きがいをもって自立して生活できる

令和元年度の目標

① 就労継続支援 A・B 型事業所から一般就労を目指すための仕組み作りのための実態把握

② 障害者雇用の拡大（企業向け支援）

③ 就労継続支援ネットワークの在り方の検討

具体的な取り組み

就労継続支援 A・B 型事業所の利用者（家族）、職員への一般就労希望アンケートを実施。今年度の到達点の検討。

企業セミナーの開催について柏市と松戸市でハローワークと調整中。

就労継続支援ネットワークの在り方について、各事業所の意向を伺うためのアンケートの実施。

【具体的取り組みの内容】

① 就労継続支援 A・B 型事業所から一般就労を目指すための仕組み作り

就労継続支援事業所の利用者・職員向けに一般就労希望調査票（アンケート）を作成・配布し、集計した調査結果を基に必要な仕組み作りに向けての課題を検討した。28 事業所中 22 事業所から回答いただき、利用者・家族 352 人、職員 98 人からの回答を得た。

利用者の調査結果から一般就労を希望していると回答した人は、就労継続支援 A 型では 4 割、B 型では 3 割という結果だった。

一般就労を希望する利用者は、「将来の職業生活への不安に関する相談」や、「企業見学・面接時の同行」を必要な支援として求めている人が多かった。また、就労までの道のり（見学、実習、書類作成、面接、定着支援）や自身の障害特性を踏まえた職業適性が分からないこと、やりたい仕事のイメージを持っていないことが課題として考えられる。

職員の調査結果からは、一般就労の支援を行っていない理由として「職員の手が回らない」「就職が困難のために利用している」という回答が多かった。また外部支援機関との連携については、就労継続支援 A 型の方が B 型より支援機関の活用が多い回答ではあったが、そのほとんどが HW であり、次に多いのが A・B ともに障害者就業・生活支援センターだった。事業所における就職の支援について「ほとんど行えない」と回答した理由として、まだ一般就労できる状態ではないことや利用者側の就労に対する希望がないなど、利用者側の課題や「日々の業務で手一杯で一般就労への支援まで手が回らない」、「外部の就労支援機関を知らない」など職員側の支援への不安や事業所の人員体制などが挙げられている。

今後の部会の取り組みは、一般就労を目指すための仕組み作りの一つとして、就労までの道のり・流れが視覚的に見えるようなもの（「就労支援マップ（仮）」）を作成して情報発信することを検討している。

② 障害者雇用の拡大（企業向け支援）

コロナの影響で中小企業の業績が厳しくなる中、企業で働いていた障害当事者が自宅待機になったり、分散勤務になり給料が下がったりという実態がある。一方で在宅ワークやテレワーク等を導入して、障害者雇いを促進している企業もある。そこで、テレワークを積極的に行っている企業から、コロナ禍において障害者の雇用継続に悩んでいる企業に対し、障害者の多様な雇用の創出方法などを発信してもらい、障害者雇用について理解を深めていただく研修会を企画した。

上記企画を柏市に提案し、柏市と合同でオンライン企業向け研修会を開催することで調整（R3 年 2 月 19 日）した。テレワークの導入の支援を行っている「㈱テレワークマネジメント」の講演とテレワークを実践している企業のパネルディスカッションを行う予定。

③ 就労継続支援ネットワークの運営支援

ネットワークの望ましいあり方を問うアンケートを就労支援継続事業所に配布。その結果、活動は継続すべきという意見が 22 事業所（全 28 事業所）から挙げられ、これを踏まえて、どのような形で活動を継続していくか 9 月にネットワークを開催して意見交換した。ネットワークでは、他事業所の運営や様子に関する情報共有を求めて参加している事業所が多くあった（特に今年は、コロナの影響や対策など）。今後は、ネットワークの代表者を主体として、年に 1-2 回程度はネットワークを開き、情報共有やネットワーク内で求められる活動を継続していく。

【令和2年度の目標の達成度】

- ① 一般就労希望調査を作成・配布し、市内のほぼ全ての就労継続支援事業所に通所する利用者と職員に対し就労支援における実態把握を行った。今後の取り組みとして、「就労支援マップ（仮）」（一般就労に必要な情報提供）をまとめ、発信することを一つのアプローチとして検討している。目標としている「就労継続支援事業所から一般就労への仕組み作り」に繋がるように、精査しながら取り組んでいくことが必要である。
- ② 今年度はコロナウイルスの影響で、現在の障害者雇用の実態を踏まえてオンライン企業セミナーを柏市と企画し、実施に向け準備を進めた。また昨年度、松戸市単独で行った企業間の意見交換会から、後追いを行ったことで、実際に雇用につながった企業が1社あった。セミナー終了後の後追いをより一層丁寧にするすることで、企業の障害者雇用拡大につながる可能性があり、その方法について議論が必要である。
- ③ ネットワークの代表者がA型・B型事業所それぞれから新たに選出され、今後のネットワーク運営は代表者を主体として行い、部会はネットワークからの依頼等を受けて適宜必要なサポートをする形となった。また、ネットワーク代表者には就労継続支援事業所の代表として部会に参加していただく。

【次年度への取り組み事項】

- ① 一般就労希望調査票の結果を基に、就労継続支援事業所から一般就労への仕組み作りを構築していく。
- ② 柏市と2市合同で障害者雇用に関する取組みを継続する。セミナーや研修会の参加企業の後追いをすることで、障害者雇用における課題の把握や企業支援を継続する。

「一般就労に関する希望調査」集計結果報告（抜粋）

1. 調査の概要

(1) 目的

松戸市地域自立支援協議会就労支援部会において、就労継続支援事業所の利用者のうち、就職を希望している利用者の実態や、次期障害福祉計画の成果目標を達成するために就労継続支援事業所及び利用者が一般就労を目指すうえで抱いている課題、現状等を把握することを目的とし、松戸市内の就労継続支援事業所 利用者、職員に対し、アンケート調査を実施しました。

(2) 調査期間

- ・ 発送日 令和2年9月10日（木）
- ・ 回収締切 令和2年10月9日（金）

(3) 回収状況

- ・ 調査客対数 28事業所
- ・ 回答率 78.6%（22事業所/28事業所）
- ・ 有効回答数 利用者・家族 352件 職員 98件

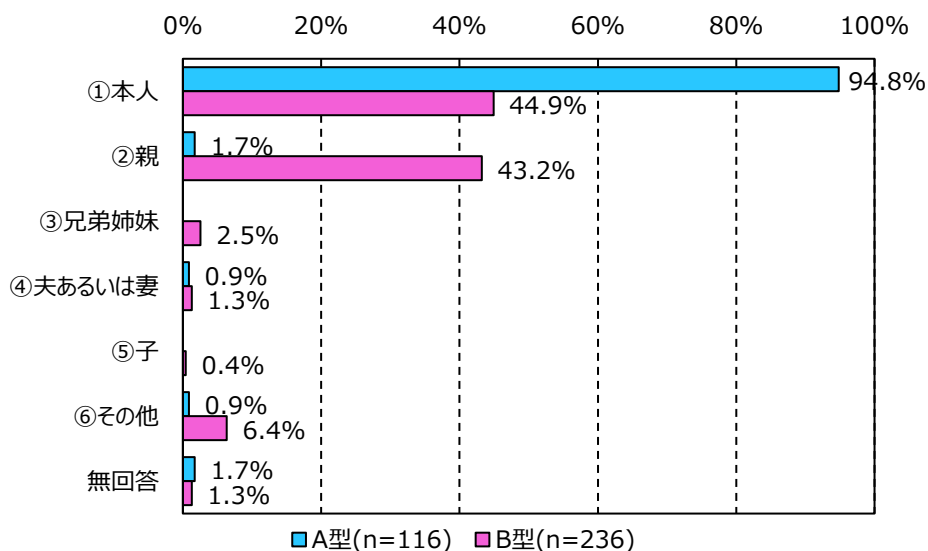
2. 報告書の見方

- ・ 図表中の「n」とは、回答数を表します。小数点第1位まで示した数値は回答比率（%）です。
- ・ 回答比率は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
- ・ 設問によって、無回答等の図表化を割愛しているため、回答者数と設問内「n」の内訳数の合計が一致しない場合があります。

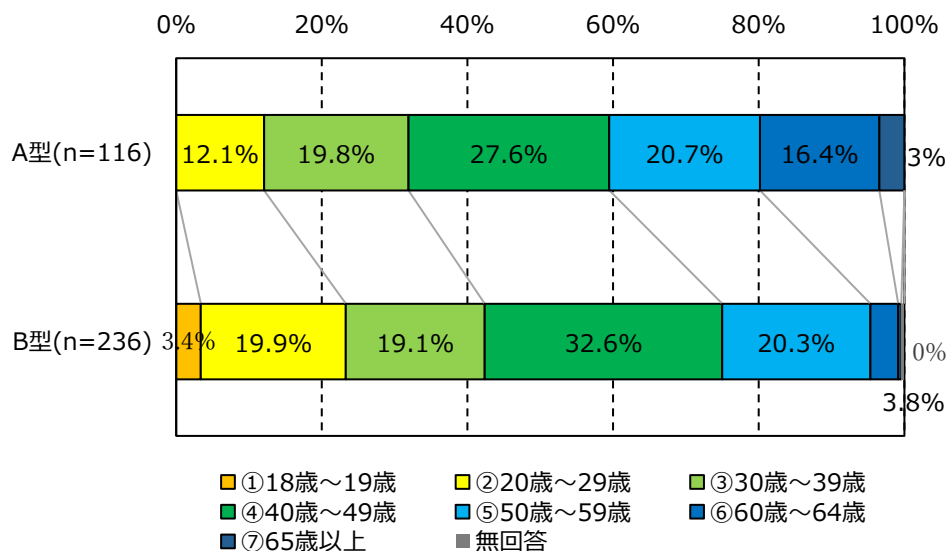
【アンケート調査内容】

利用者（ご家族）

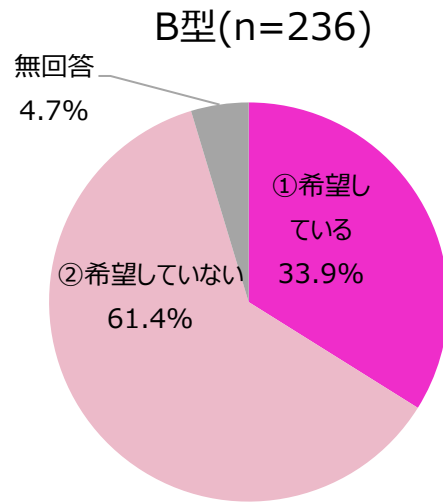
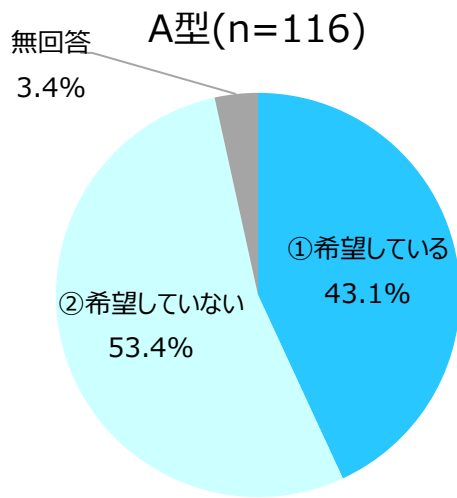
問 協力者とご本人との関係について○をつけて下さい（ご本人から見た属性）



問 ご本人の年齢をお答え下さい（あてはまるものに○をつけてください）



問 一般就労を希望していますか

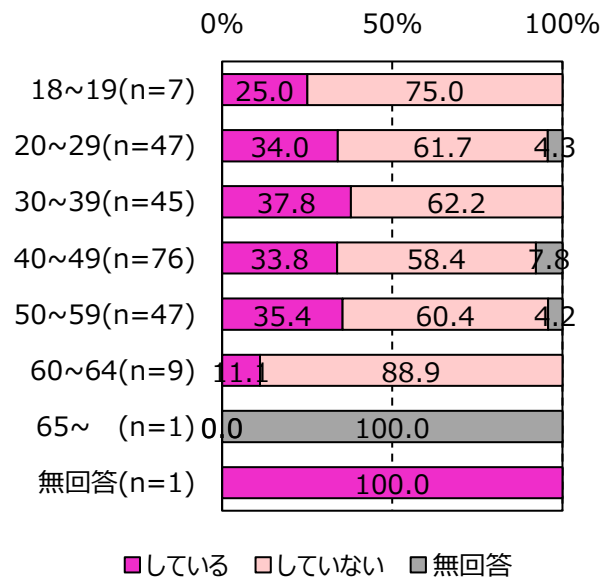
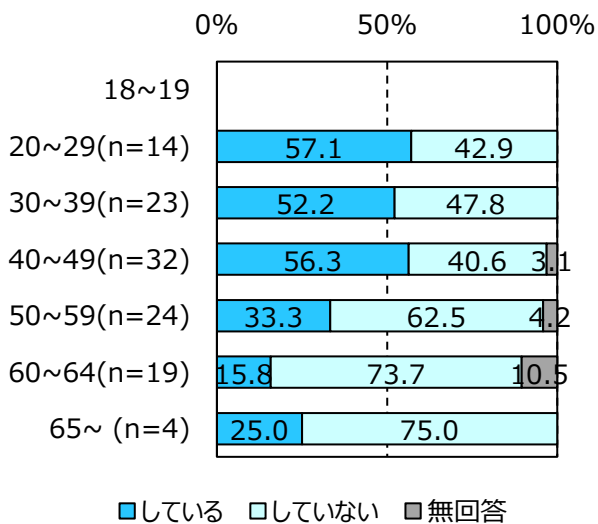


・就労意向について、就労継続支援A型では4割の方が、就労継続支援B型では3割の方が希望しており、一定数いることがわかった。

■ (参考) 年齢 (Q2) × 一般就労意向 (Q7(1))

【A型 n=116】

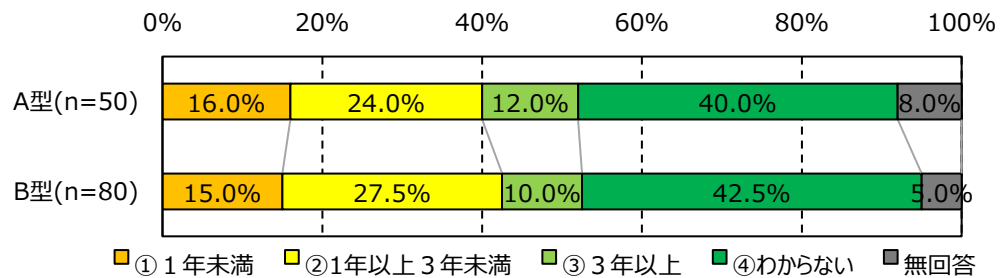
【B型 n=236】



・就労継続支援A型において、50歳未満までは各年齢の半数の方が就労希望と回答しているが、50歳以上では就労希望と回答した方は、それぞれ3割以下となっている。

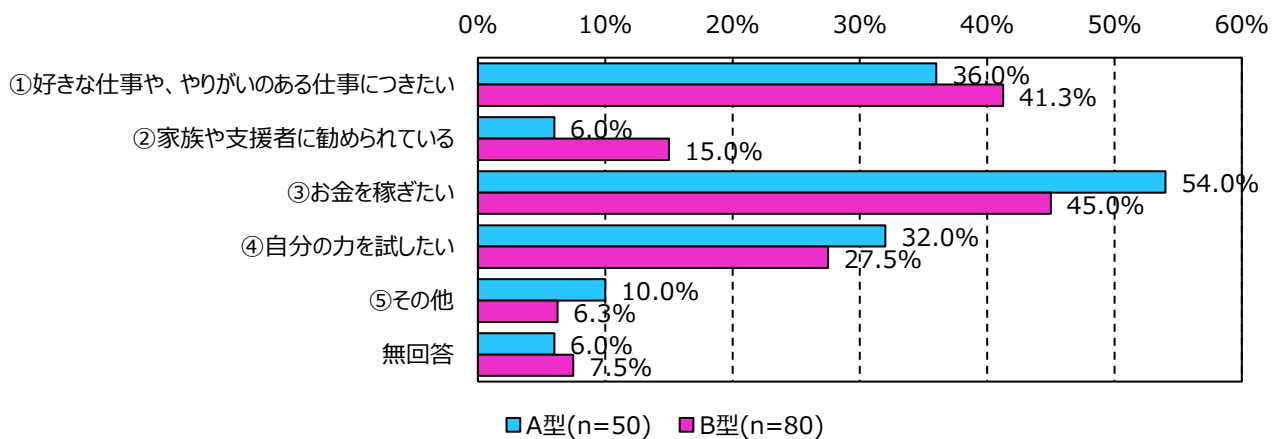
・就労継続支援B型において、60歳未満までは各年齢の3割の方が就労希望と回答している。

問 「①希望している」の方へ、いつくらいまでに一般就労をしたいですか



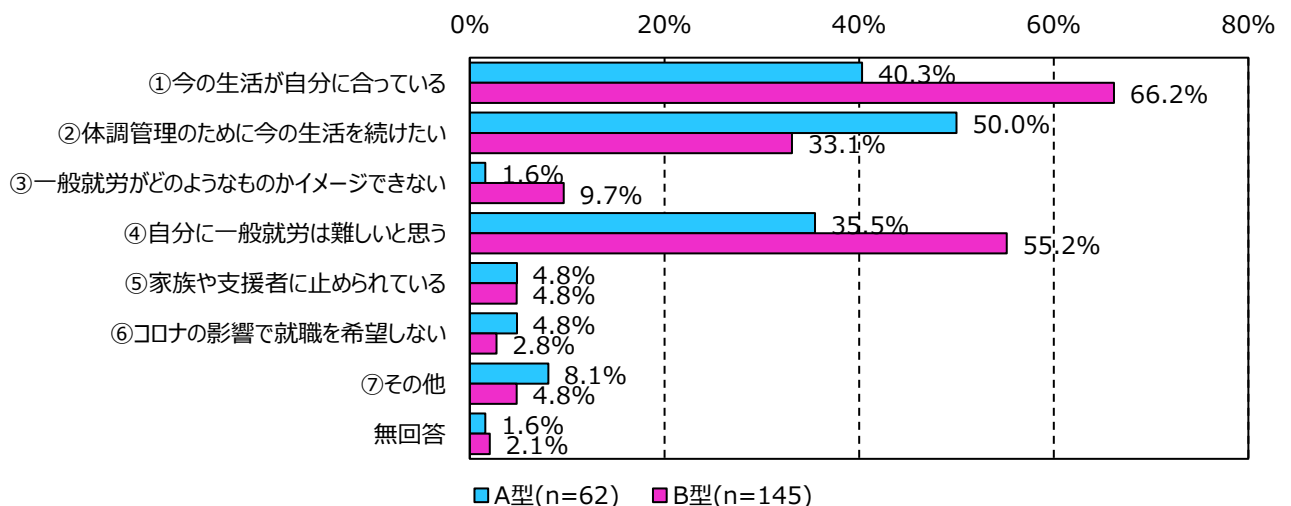
・就労継続支援A型、B型ともに一般就労したい時期は「わからない」と回答した方が一番多かった。

問 一般就労を希望する理由は何ですか（あてはまるものすべてに○をつけて下さい）



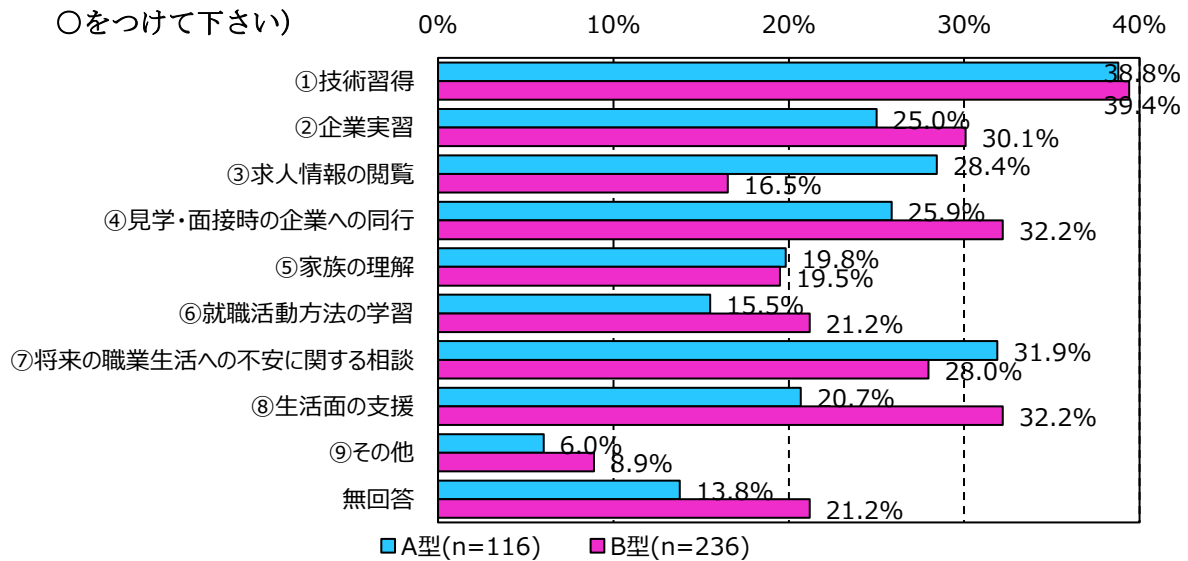
「その他」：結婚したいから、義務だと思うから、家族を養いたい、世の中に返していききたい、いずれは生活出来なくなるから、もっと色々なことが出来るようになりたい、社会人としての用があるから 等

問 ②希望していない方へ、その理由は何ですか（あてはまるものすべてに○をつけて下さい）



「その他」：年齢 (3)、以前一般就労で人間関係がうまくいかなかった、体調、今の事業所が好き、まだ考えられない (2) 等

問 どのような支援があれば一般就労が目指せると思いますか。(あてはまるものすべてに○をつけて下さい)

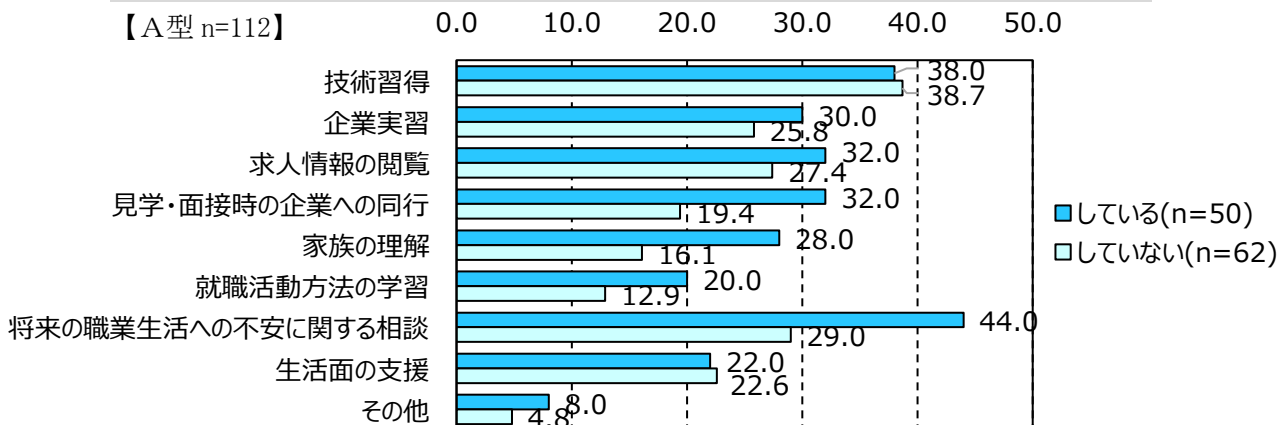


「その他」：企業の障害に対する理解 (6)、社会の理解、一般就職できるかのレベル判定、資格が取れる支援、体力をつける支援、就職面接会、職場での支援、ジョブコーチ支援、わからない (4) 等

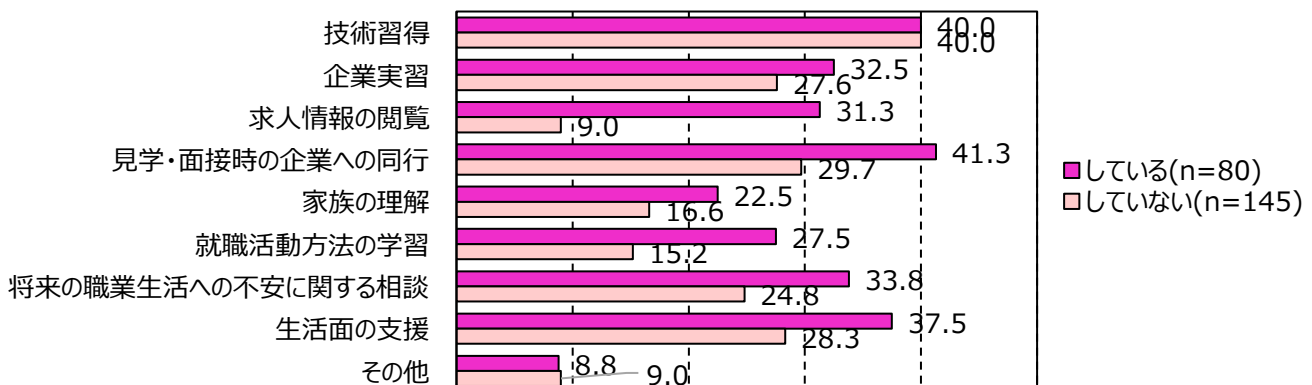
・必要な支援として、技術習得が両者ともに高く、A型では、「将来の職業生活への不安に関する相談」が最も多く、B型では、「企業実習」や「見学・面接時の企業への同行」が多く、企業に関するサポートを必要と回答した人が多い。また、B型については、「生活面の支援」についても多かった。

■ (参考) 一般就労に必要な支援 (Q9) × 一般就労意向 (Q7(1))

【A型 n=112】



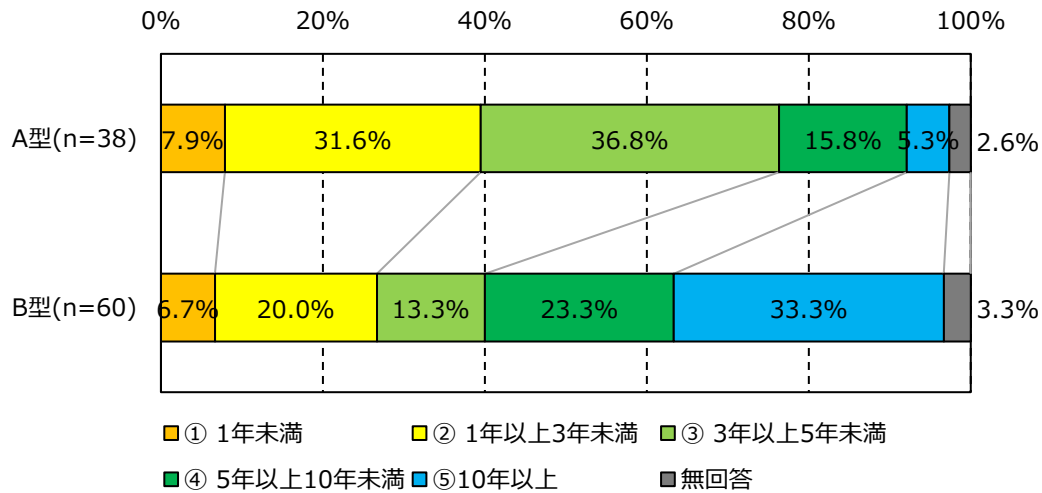
【B型 n=225】



- ・就労継続支援A型、B型ともに就職希望者は一般就労への不安感の緩和・解消に向けたサポート(面接等への動向、相談、技術習得など)のニーズが高い。
- ・就労継続支援B型での就職希望者においては、「生活面の支援」を希望している人が多い。
- ・就労継続支援B型の就労希望者は、生活リズムや体力面等の日常生活における課題を感じている人が多いことがわかる。

職員

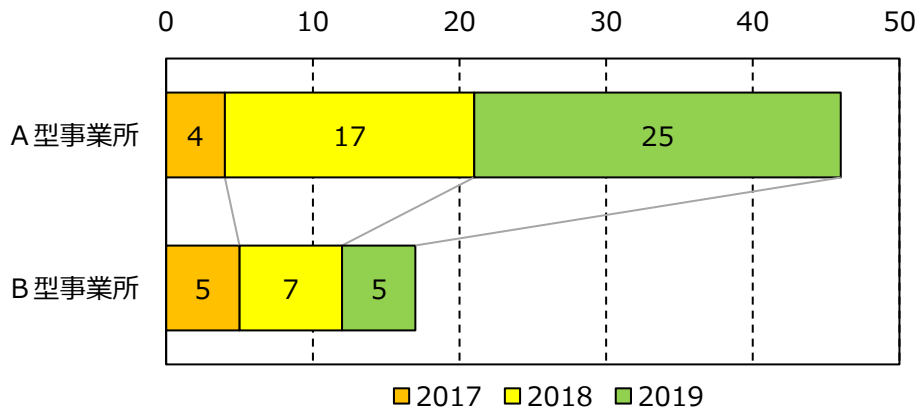
問 支援の経験年数（現在の事業所を含む通算年数）



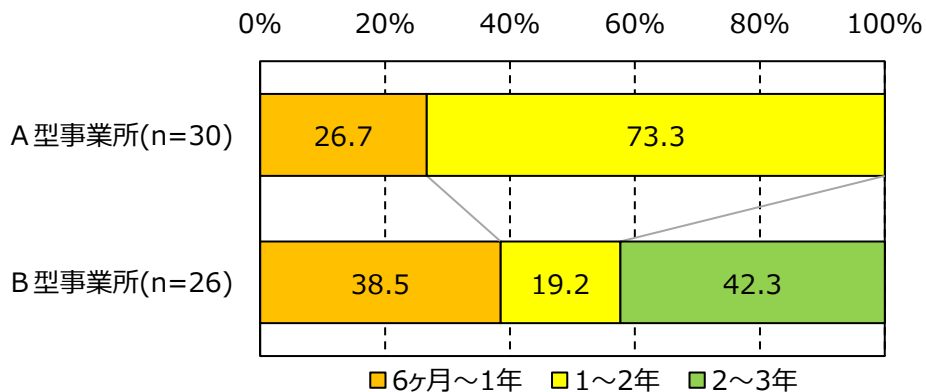
・就労継続支援A型事業所は、3年以上5年未満が一番多く、B型は10年以上の支援者が一番多い。

問 あなたの所属する事業所についてお答え下さい。

(1) 過去3年間の就労実績人数をお答え下さい。

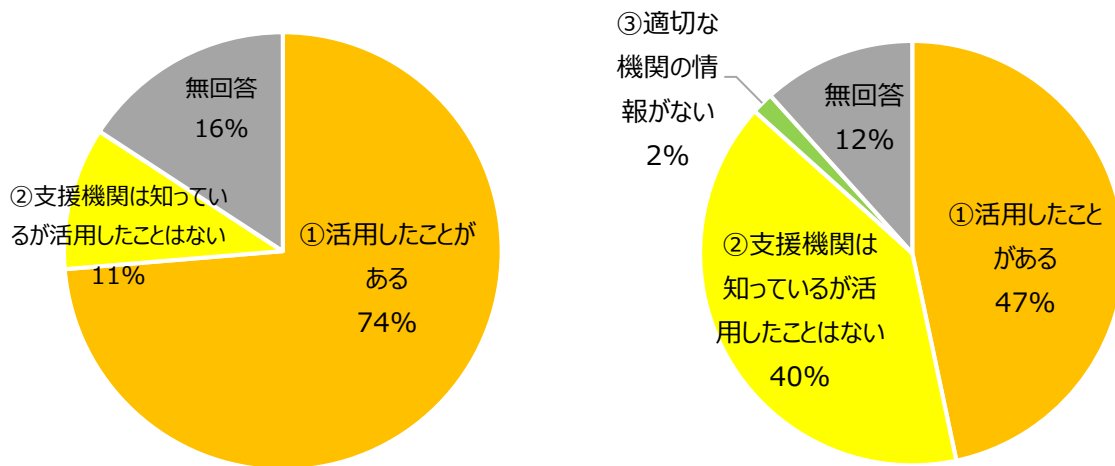


(2) (1) で就労した方は、就労がどのくらい継続していますか。(人数が複数の場合、平均値をお答え、下さい。)

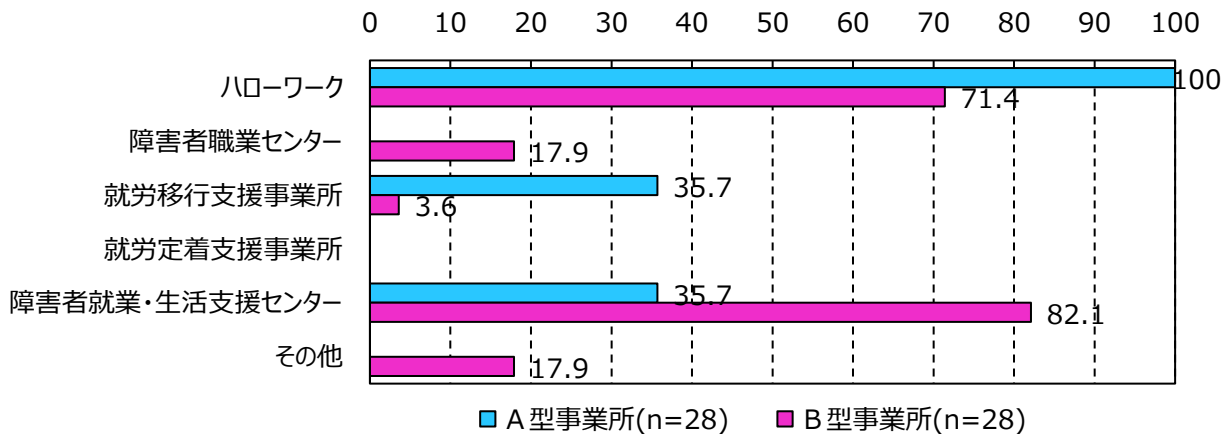


・就労継続支援A型では、B型より就職者は多いが、2年以上定着している方がB型より少ない。

(3) 利用者の就労にあたり、外部の支援機関を活用したことはありますか。



①と回答したところにお伺いします。活用した機関を○で囲んで下さい。

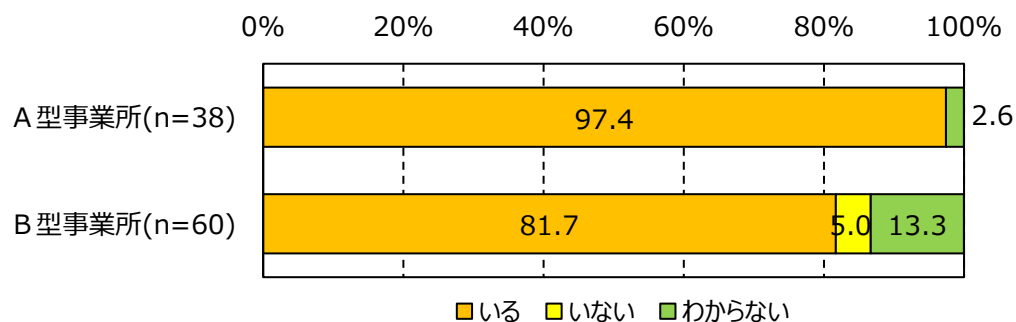


「その他」：医療関係

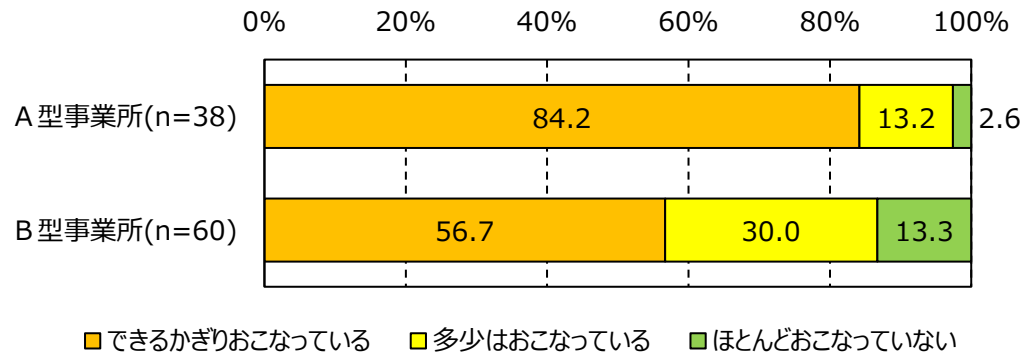
- ・就労継続支援A型の方がB型より支援機関の活用が多い回答ではあったが、そのほとんどがHWであり、次に多いのが障害者就業・生活支援センターだった。
- ・就労移行支援事業所の活用は、A型もB型も各1事業所のみであり、就労定着支援事業所の活用は0であった。

問 利用者の就職についてお答えください。

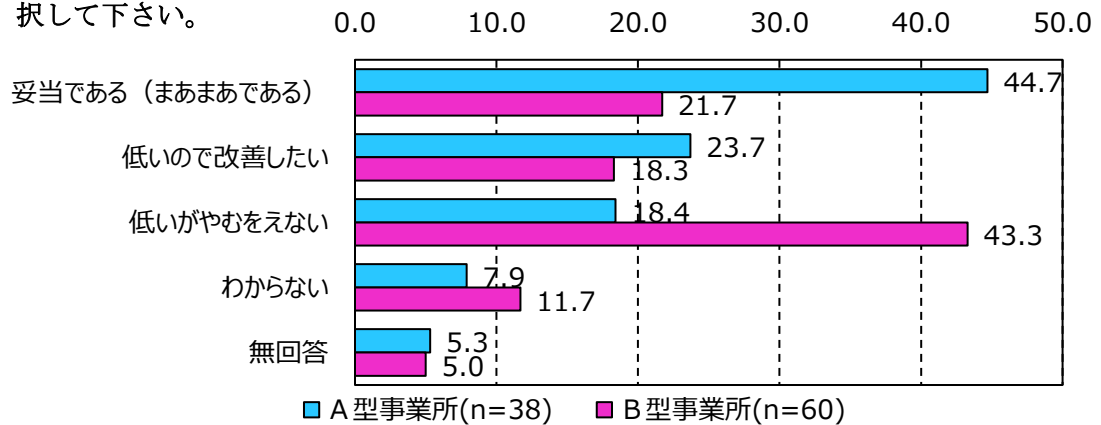
(1) 所属事業所で、就職を希望する利用者がいますか。



(2) 所属事業所での就職への支援について、どのような状況ですか。一つ選択して下さい。



(3) 所属事業所の利用者の就職率について、あなたはどのようにお考えですか。一つ選択して下さい。



・「低いがやむをえない」と回答した方の理由として、まだ一般就労できる状態ではないことや利用者側の就労に対する希望がないなど、利用者側の課題や職員側の支援への不安、また事業所の人員体制が挙げられていた。

令和二年度 松戸市地域自立支援協議会 こども部会

【部会の活動目的】

- ① 障害のある子どもとその家族の「相談と支援」についての現状と課題を把握する
- ② 障害のある子どもとその家族が安心して生活するために必要な「支援」を検討する

課題

<p>[早期相談支援]</p> <ul style="list-style-type: none">① 幼稚園や保育園等の現場では発達に遅れのある子どもがいても、どこが相談窓口になるか、どういったサービスが受けられるのか先生が知らない場合も多く、うまく支援に繋がらないケースもある。② 支援が各分野（医療・教育・福祉・保健など）で行われ、分野を越えた一貫した支援が受けづらい。また、年齢によって窓口や使えるサービスが異なるため、支援したい子どもがいた場合でも、その子が今どんな資源が使えるのかわかりづらい。	<p>[ライフサポートファイル]（以下、LSF と略）</p> <ul style="list-style-type: none">① ライフステージごとに支援の担い手が変わりやすいため、一貫した支援が継続されにくい。② LSF を持っても、保護者から何をどのように書いていいかわからないといった声があり十分な活用に至っていない。支援者側（事業所側）から LSF を活用してもらうような働きかけが十分できていない。
--	--

目指す姿

支援が必要な子どもが抜けなく、切れ目なく支援を受けられる

令和二年度の目標

<p>[早期相談支援]</p> <p>早期相談支援マップを活用して、子育て機関と障害福祉関係機関が相互に相談・連絡しあえ、障害の疑われる子どもが早期に相談につながるようになる。</p>	<p>[LSF]</p> <p>ライフステージが変わっても、保護者・支援者が LSF を活用して必要な支援が継続し、子どもの将来の見通しがもて、安心できる</p>
--	---

具体的な取り組み

<ul style="list-style-type: none">① 早期相談支援マップを周知（各機関にマップを郵送・メール等）する。② 部会員が関係している会議を活用して各機関に早期相談支援マップの周知を進める。	<ul style="list-style-type: none">① LSF のより一層の周知と書く支援、使う支援をデジタル化を含めて検討する。② LSF の活用のために支援者（相談支援専門員等）に協力を呼びかける。
---	--

【具体的取り組みの内容】

[早期相談支援]

早期相談支援マップの周知活動を実施。周知先にマップの趣旨と実際の使い方が伝わるように、「趣意書」「使い方のフロー」を早期相談支援マップに追加。主な周知先とした保育園等には園長会議に参加し、早期相談支援マップの趣旨と使い方を説明。各園所に1部ずつ配布。その他、こどもの早期相談に関わりのある機関（市役所関係課、おやこDE広場、子育て支援センター、児童福祉関係、障害福祉関係、教育関係など）に各部会が関係している会議にて周知を図ったり、メールに本マップを添付しての周知を行った。（配布先一覧参照）

[LSF]

ライフステージが変わるタイミングで、支援者から保護者向けにLSFが便利に使える事を伝える事が効果的なことを確認。就学相談や高校の進路面談の場面などで、LSFの有無を聞いてもらい継続的に周知を進めている。

相談支援部会と相談支援事業所連絡会にてLSFの趣旨説明と協力依頼を行った。相談員にとってのメリット（情報収集のツールになる、支援関係者と情報共有のツールになる等）と保護者にとってのメリット（新しい事業所を利用する際に支援者に必要な支援を伝えるのに役に立つ、書類整理に活用できる等）を伝えながら活用を広げていただく協力依頼をした。

書く支援、使う支援においては、デジタル化は予算が必要になることもあり、書き方・使い方についてホームページから誰でも見れるような静止画の作成を検討した。支援者側にも見本を交えながらLSFを使うイメージを持ってもらえたり、保護者の書く負担の軽減を目的に、保護者の困り感・負担感に寄り添った形でLSFの使い方・書き方のナビゲートする静止画の作成に取り組んでいる。

【令和二年度の目標の達成度】

[早期相談支援]

今年度は、保育園を中心に早期相談支援に取り組む関係する機関へ周知まで達成はできた。今後、周知をしたそれぞれの場所で、どのように活用がされたのか、実際に相談につなげる上でどのような課題があるのか把握して、実用化していくことが必要。

[LSF]

ライフステージが変わるタイミングで、保護者にLSFを使うことのメリットを含め伝えることが有効であることを確認。相談支援部会・相談支援事業所連絡会にLSFの趣旨説明と活用を広げる協力依頼を行ったが、支援者側に、使うイメージがまだ持てないため、支援者から保護者への働きかけが十分できてはいない。特に就学前の児童発達支援事業所や相談支援専門員に、LSFを使うことで必要な支援がより一層効果的にできるイメージを持ってもらうことが今後の課題と考えている。

【次年度への継続検討事項】

[早期相談支援]

- ① 周知をした各機関へマップの活用状況を確認し、マップの実用性の評価をする。

[LSF]

- ① 児童発達支援事業所と障害児相談支援事業所に周知のターゲットを絞って、静止画紹介と周知活用依頼を行う。
- ② 周知状況の経過を追いながら、必要に応じてLSFの見直しを検討する。

[新規課題]（重点課題）

早期相談支援と LSF は周知までは終わっているため、一定の活動方向は見えた。次なる課題の着手にとりかかれる。現在、こども部会として改めて取り組むべき課題の洗い出しを行っている。たとえば「教育との連携」「児童に特化した短期入所の場所」「養育困難・感染症対策のためのシェルターの役割の場の必要性」などがあがっている。どの課題も取り組む上では十分な精査が必要であり、次年度から新たに始まる障害児福祉計画と連動して取り組むことが必要。次年度 8 月の第 1 回本会議までに課題の抽出と選定をまとめていくように検討中。

■早期相談支援マップ配布先

	周知先	箇所	周知方法
保育・子育て	公立保育園	17	10/7園長会議+連絡便
	民間保育園	48	連絡便
	私立幼稚園	40	12/4役員会+連絡便
	認定こども園	11	連絡便
	小規模保育	78	2/4ZOOM会議+連絡便
	ファミリー・サポート・センター	1	メール
	おやこDE広場	17	メール
	ほっとるーむ（※おやこDE広場4+晴香園1に同じ）	5	メール
	子育て支援センター（※保育園4+こども園4に同じ）	8	メール
	児童福祉館・こども館	5	子どもわかもの課へ依頼
	放課後KIDSルーム（※小学校27か所を12の法人で運営/児童クラブと同じ）	12	メール
	放課後児童クラブ（※小学校45か所を14の法人で運営）	14	メール
	病児・病後児保育	4	メール
	市役所関係	親子すこやかセンター（中央、小金、常盤平）	3
子育て支援課		1	メール
子ども家庭相談課		1	メール
子ども家庭相談課 母子保健担当室（中央、小金、常盤平）		3	メール
保健福祉センター（中央、小金、常盤平）		3	メール
子ども政策課		1	メール
子どもわかもの課		1	メール
障害福祉課		1	メール
保育課		1	メール
保健体育課		1	メール
幼児教育課		1	メール
生活支援課（1課・2課）		2	10/7福祉相談機関連絡会+メール
児童福祉		柏児童相談所	1
	児童家庭支援センター オリーブ	1	メール
	こどもショートステイ（※児童養護施設晴香園、さわらびドリームこども園は上記に同じ）	1	メール
発達	CAS東葛飾	1	メール
	こども発達センター（相談診療/相談支援/通園/児童施設巡回/一時的介護）	5	部会員による周知
教育	教育研究所	1	部会員による周知
	子どもと親のサポートセンター	1	メール
	千葉県総合教育センター 特別支援教育部	1	メール
	特別支援学校（松戸、つくし、矢切）	3	部会員による周知
障害福祉	基幹センター-CoCo	1	部会員による周知
	ふれあい相談室	1	10/7福祉相談機関連絡会
	障害児相談支援事業所	19	メール
	児童発達支援事業所	30	メール
	放課後等デイサービス事業所	51	メール
保健医療その他	松戸健康福祉センター（松戸保健所）	1	メール
	市民健康相談室（保健師が妊娠中・子育て中の相談）	9	メール
	小児科・小児歯科（※医療機関マップ（子育てGB））	1	医師会、歯科医師会へ依頼
その他	ほっとねっと	1	10/7福祉相談機関連絡会
	自立相談支援センター	1	10/7福祉相談機関連絡会
	合計	409	

ライフサポートファイル紹介静止画

抜粋

ライフサポートファイルのお知らせです。

ライフサポートファイルは赤ちゃんの時から記録です。書いておくこれからのいろいろな場面で役に立ちますよ

パパ、ライフサポートファイルを進められたのもよくわからない

それは何？ママは毎日大変なのに何か作るの？そんな余裕はあるの？

1

サポートノートを書いてみよう

ここからは、いろいろ疑問に答えてくれるらしいので、一緒に見ていきましょう。私は松戸松子と申します。自閉症スペクトラムと診断された2歳10か月のお男の子の母です。よろしくお願いします。

先輩、ママに書いておくって便利といわれたのですが、何が便利かわからないので、なかなか取り掛かれなくて

2

ライフサポートファイルは面接で役に立つ

先輩ママが教えてくれたわ。今は2歳なので、ちょっとイメージできになったのだけれど。これから、幼稚園に行かせたいとか、学校も普通学級？特別支援学校？とか、いろいろ相談しないといけない。それに、市のサービスや、利用できる事業もあるらしいの。でもそういう時はいつも「面接」があって、生まれた時のこととか診断されたときのこと聞かれるらしいの。それがライフサポートファイルに書いておくとよい情報らしいのよ。

そうなの？じゃあライフサポートファイルは「面接」で役立つってこと？

まあ、相談の時にこのファイル書いてあると役に立つと思うよ。と言われたわ。

3

とりあえず、書いてみよう

プロフィールはすぐに書ける

生まれたばかりの写真とか、お座りできたころの写真を貼っておくとよいそうなの。生まれたとき何グラムで、首のすわりが...写真を見てもらうと、たくさん説明しなくても割ってもらえるって。

緊急連絡先はおばあちゃんとおじいちゃんにお願いしようね。おじいちゃんの家まで、30分くらいだね。

4

コメントつけて写真を張る作業

〇〇小学校：特別支援学校を進められた。でも低学年、ちょっとチャレンジしたかった。地域の小学校へ。

はいはい2歳：遅くて心配だった。目もわかないし...

こんな感じで写真とメモつけておくすぐに思い出せるね。

〇〇幼稚園：入園許可：園長先生に理解があった。うれしかった。

3歳10か月歩けたー歩き出したらじっとしてない。別の心配が出てしまったね。

5

受給者証のこと調べてみたよ

太郎ちゃんは自閉症という障害認定されているから、いろいろ福祉サービスを受けられるらしい。受給者証というのは、サービスを受けるときに必要な「証明書」らしいよ。市に相談すればちゃんと教えてくれるし、色の違いも分かるよ。

ありがとう。太郎ちゃんには大事な物ってことね。コピーして、やっぱり貼り付けておこうかな？

6